

# 豆 狸 の 寝 言

副会長 三原幸二

自動車通勤をしているので、毎朝、運転しながらラジオを聞いている。

いつかのラジオ番組で、興味深い話をしていた。

痴呆に関する話題で、どこかにお伺いしてお茶をいただいたとき、

「ほんとうに美味しいお茶でした。ごちそうさまでした。このお茶は、  
どこのお茶ですか」

そんなふうに見える人は、けっして痴呆にならない、ということだった。

いただいたお茶をゆっくりと味わい、おいしくいただいた感謝の気持ちを言葉にして表わす。そして、このお茶はどこのお茶だろうと関心を持って聞く。こんなふうには、感謝の気持ちを素直に伝えることができる人、また日常のささいなことにも好奇心を持つことができる人。そんな人は、年齢を重ねてもみずみずしい感性を失わないから痴呆にならない、ということらしい。

反対に、痴呆になりやすい人は、お茶をいただいても、おいしいのかおいしくないのか、味わうこともなく、黙って飲み、飲んだあとも何ごともなかったように茶碗を置く。このように、感謝の気持ちもそぶりも見せないような人は、痴呆になる確率が高いそうである。



言われてみると、「痴呆の予備軍」といえるような人が私の周りにも随分いらっしゃる。やる気や元気が感じられない人、何ごとも無関心な人。

どなたもそうでしょうが、私も痴呆になるのはかなわない。これからは、お茶をいただいたときにはゆっくりと味わい、「おいしゅうございました」と心から言うことにいたします。

(2004年・心にしわが寄らない話)